

広報かみいち総合病院

第49号 令和6年(2024年)2月発行



編集・発行 かみいち総合病院 広報委員会
〒930-0391 富山県中新川郡上市町法音寺51番地
TEL.076-472-1212 FAX.076-472-1213
E-mail:kanri@kamiichi-hosp.jp
URL:https://www.kamiichi-hosp.jp/

御挨拶

院長 浦風雅春

新年あけましておめでとうございます。

元旦は積雪もなく、今年もおだやかな年明けを迎えたと思っておりましたが、夕方4時過ぎに大きな地震が発生し、大変驚きました。幸い、病院自体には大きな影響はなく、院内のエレベーターが一時ストップし、食事の配膳が遅れるなどの事態にはなりましたが、患者様やスタッフには転倒するなどの直接的な影響はなく、不幸中の幸いであったと思います。能登では甚大な災害となりましたが、今回の地震でお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げ、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます次第であります。

さて、昨年は、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり、一般の生活はコロナ禍前の日常に戻りつつあります。しかし、感染症は消滅したわけではなく、12月からは、インフルエンザの拡大とともに、新型コロナウイルス感染症も再流行の兆しをみせております。感染予防対策は普遍的なものであり、今後も引き続き、職員全員で感染予防対策を実践・徹底し、安全・安心な医療の提供が継続できるよう取り組んでまいります。

診療体制に関しては、現在、眼科が非常勤体制になっており、患者様やスタッフには申し訳なく思っていますが、次年度以降の常勤医の確保にむけ調整を進めてい

るところであり、もうしばらくお待ちいただきたいと思えます。富山大学との寄付講座も継続され、総合診療部からの派遣医師数も今年度と同様の予定であります。医師の働き方改革が、今年4月からはじまり、医師の勤務時間の制限がかかりますが、診療体制を大きく変更させることなく維持できるものと考えています。

病院経営に関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、収益の悪化を想定していましたが、職員皆様方の大変な御尽力のおかげで、令和2年度(2020年)、令和3年度(2021年)に続き、令和4年度(2022年)も黒字決算を達成することができました。特に令和3年度は、コロナ病床確保の補助金を除いても黒字決算となっており、職員の皆様には深く感謝申し上げます。今後も黒字決算が達成できるよう、全職員が一丸となつてがんばっていききたいと思います。

ロシアのウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスとの紛争など世界情勢もますます混沌とし、自然災害もいつ発生するか全く予測はできず、病院経営もいまだ厳しい状況ですが、病院の理念と基本方針をもとに、日々の業務を着実に遂行し、医療を通して住民が安心して生活できる地域づくりに貢献し、規模は小さくても地域に必要不可欠な病院として、永く維持・発展できるように、病院全職員が一丸となつてがんばっていく所存であります。引き続き皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

むすびに、今年、令和6年(2024年)、当院がさらに充実・発展し、皆様全員が健やかで、幸多い年になりますように祈念いたしまして私の新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

基本理念

「住民が安心して地域で暮らし続けるための医療の砦として私たちの病院が存在する。」

基本方針

- 1 患者さんへの思いやりを第一とし、患者さんの尊厳と権利を尊重し、十分な説明と同意のもとに患者さんと共に創出する医療を提供し、患者中心の全人的医療を行います。
- 2 職員一人一人が「病院の顔」であることを自覚し、医療倫理を守り、真摯な態度で医療に取り組むことで安心・安全・良質な医療を行います。
- 3 専門職としての誇りと目標を持ち、常に研鑽を重ね、知識・技術・医療水準の向上に励みます。
- 4 全ての職種が互いに信頼し協働して、多職種連携による充実したチーム医療を行います。
- 5 地域の基幹病院・在宅療養支援病院として医療・福祉・介護・保健分野と連携を促進し、地域包括ケアシステムの一翼を担う地域完結型医療を目指します。
- 6 住民との交流イベントや啓蒙活動を通じて、地域住民の健康増進と町づくりに貢献する地域に開かれた病院を目指します。
- 7 職員が働く喜びと誇りを持ち、安心して働ける充実した職場環境を整備し、明るい病院づくりと人材育成に力を入れます。
- 8 自治体病院としての公共性を担いつつ、経済性を考慮した健全で効率的な病院経営に努めます。

整形外科領域における人工股関節前方 最小侵襲手術導入による効果

看護部：柿森祐司、坂本はなえ、島田夏華、伊藤明香里、大井亜紀
診療部：高嶋勇人、酒井康一郎、西川裕行

2023年12月3日(日)に富山県医師会館で開催された「2023年度富山県医学会(第77回)」におけるポスターセッションで当院の発表(標題:整形外科領域における人工股関節前方最小侵襲手術導入による効果～特殊体位固定器具を使用するための看護の標準化を目指して～)が銀賞に選ばれました。

これは、2022年11月から当院に導入した人工股関節前方最小侵襲手術(AMIS)で使用する特殊な体位固定器具(レッグポジショナー)による手術体位の固定に関する課題(手術体位が安定しないこと、手術スタッフの動きに迷いがあること、体位固定に時間を要すること等)を解決するため、関係施設を見学し、それによる学びをチームで話し合い、再度シミュレーションを実施したことにより、手術体位固定に関する手順等をマニュアル化することができたため、体位固定に要する時間を大きく短縮することができた



ほか、それが麻酔時間の削減等にもつながったことにより、手術時の患者負担の軽減に貢献することができたことを内容としたものです。

当院では、今後もさらに医療・看護技術の向上に努め、患者の生活の質の向上に寄与していきたいと考えております。



いのちの授業

「いのちについて一緒に考え、一緒に話そう」



富山大学 上市・地域医療支援学講座 客員准教授 河合 皓太

わが国は、高齢化社会、多死社会を迎えており、家族の死あるいは介護に直面する機会が増えてくることは容易に想像される。一般人を対象に「最期の場所」の希望をアンケート調査した結果では、約半数の人が「自宅」と回答しているのに対し、実際に自宅で最期を迎えた人は約10%程度と少ない。この理由として、本人の意思が明確でないケースや介護負担が大きく、自宅での生活が困難なケースももちろんあるのだが、その他に、介護する側の家族が本人の死に対して向き合うことができていないというケースも少なくない。

日本では、「死」に対する教育は避けられてきた。小中学校の学習指導要領には「生命の尊さ」や「生命を尊重すること」を学ばせるべきと明記されているものの、実際には「生」だけが教育されている。2004年に長崎県や兵庫県で行われたアンケート調査では、「人は死んでも生き返る」と回答した生徒が10～15%お

り、この状況を見るに、正しく「生命」を理解できているとは言い難い。小中学生に対して「死」も含めた教育を行うことで本当の意味での「生命の尊さ」の理解に繋がり、その結果として「家族の死」に直面した時、家族の意思を尊重した介護・ケアにも真剣に向き合うことができるのではないかと考えられる。

また、「死」や「介護」に対して興味を持ってくれる人が増えた場合、将来的な医療・介護職の確保にもつながる可能性にも期待できる。

このような意図で、昨年、上市中学校にて「いのちの授業」を開催した。筆者の祖父の介護・死を題材に、中学生同士で話し合ってもらった。生徒からも教師からも反応は上々であり、今後も継続していく予定である。ぜひ、皆さんも自身や周囲の人の人生観・死生観について話す機会を持っていただきたい。

産後ケアについて

ママと赤ちゃんを支えます。



ママと赤ちゃんを支えます。

産後ケアをご存知ですか？

産後のママと赤ちゃんに対して、安心して子育てができるように、助産師等の専門家が心身のケアや育児サポート等を行う事業です。

当該事業は、少子化社会の現状を踏まえ、誰もがより安心・安全な子育て環境を整えるため、母子保健法においても明文化されていて、市区町村の努力義務となっています。以前の産後ケアの対象者は、心身に不調があり休養が必要であること、身近に支援者がいないことなどの条件がありましたが、令和5年度より、それらの条件がなくなり、1歳未満の子と母体全てが対象となりました。

産後のママは出産という大きな仕事を行い、その体の疲れが癒えないままに慣れない育児が始まり、さらに環境も大きく変化し心身ともに疲れています。その疲れを自覚し対処できる方なら良いのですが、気づかぬままに疲れが蓄積し、出産や育児が辛いものだと捉えてしまう可能性があります。

かみいち総合病院では、地域のママと赤ちゃん、その家族を支えたいという思いから、上市町と協力し、令和5年度から産後ケアを拡充しています。①院内デイケア型、②居宅訪問型、③観光施設利用型の産後ケアを助産師だけではなく看護師、理学療法士等の多職種で提供しています。

ケアの内容は利用者と一緒に計画し、母乳相談、沐浴等の育児相談、ゆっくり眠りたい、話を聞いてほしいなど様々です。骨盤ケアやママのオイルトリートメント、ベビーマッサージ等も行っています。

特に観光施設利用型が好評で、利用された方からは「久しぶりにゆっくりできた」「温かいご飯をゆっくり食べることができて嬉しい」「リフレッシュができて、元気になれた」「また子育てを頑張ろうと思える良い時間となった」等の声がありました。

産後ケアを多くの人に知ってもらい、ママと赤ちゃんの心身の健康のために「出産をしたら産後ケアを受ける」「元気に楽しく子育てができる」という地域となるよう、これからもママと赤ちゃんを支援していきます。

かみいち総合病院では、産後ケアだけではなく妊婦健診や母乳外来、またママと赤ちゃんの交流の場としてベビーマッサージやベビーヨガも行っております。お待ちしております。



患者サポート相談窓口のご案内

相談を希望される方は…
窓口 ● 患者サポート相談窓口（北館1階）
受付日 ● 月曜日～金曜日（外来休診日・年末年始を除く）
時間 ● 8:30～17:15

当院担当職員が相談内容に対応いたします。

※窓口以外にも、電話や投書箱、E-mailでもお受けいたします。
E-mailアドレス kanri@kamiichi-hosp.jp

相談内容

- 診療内容について
- 転院・施設紹介について
- 医療費・福祉制度について
- 個人情報・情報開示について
- 医療安全について
- 主治医以外の医師の意見（セカンドオピニオン）
- ご意見・ご要望 その他



お問い合わせ先 かみいち総合病院 患者支援相談室
電話：076-472-1212（代表）

職員募集

期間に定めのある職員を募集しています。

職種：
看護師、助産師、
薬剤師、看護補助者、
管理栄養士、理学療法士、
作業療法士、医療メディエーター



お問い合わせ先
電話：076-472-1212 担当/総務課 人事担当

看護師による出前講座のおしらせ



かみいち総合病院では、2023年4月より認定看護師による出前講座を始めました。好評につき今年度は38回の講座を開催し約600人の町民の方が参加されました。これからも医療・保健・福祉関係者の皆様と共に、地域住民の健康づくりをお手伝いし、顔の見える関係作りを目指してまいります。そして皆様とのつながりを大切に、地域住民・地域の医療福祉スタッフの皆様のお役に立てられるよう努めます。出前講座で楽しく健康意識を高め、いきいきと過ごしましょう。



対象者	中新川郡の住民、自治体、学校、各種団体など（政治、宗教、営利活動等を目的とする団体は対象となりません）
申込条件	5名以上のグループ・団体
開催日時	月～金曜日（祝日・休日、年末年始を除く）の10:00から16:00までの時間帯で所要時間は1時間程度
講師料	無料
申込方法	(1) かみいち総合病院ホームページ トップページの「病院の特色」の中に出前講座のコーナーがあります。 (2) 電話でもお申し込み頂けます。

健診センターからのお知らせ

子宮・乳房
合計人数
365人

令和5年度 土曜日レディース 健診受診状況報告について

6月～11月の第2・4土曜日 8:30～12:30
合計10回開催

子宮	健診	乳房	健診
頸部のみ…	46件	MMG1方向…	24件
頸部+頸体部…	89件	MMG2方向…	111件
		乳線エコー…	95件

【アンケート集計】 年代別 30代…8人 40代…26人 50代…61人 60代…46人 70代以上…22人

質問1 レディース健診全体の感想

良かった… 149人
やや良かった… 9人
どちらでもない… 2人
やや悪かった… 1人
悪かった… 0人

質問2 乳腺エコーの感想

良かった… 89人
やや良かった… 0人
どちらでもない… 0人
やや悪かった… 0人
悪かった… 0人

質問3 乳がん検診で感じたこと

◎医師の検査と診察が受けられて良かった… 77人
◎乳腺エコーとマンモグラフィーの結果をすぐ知ることができて良かった… 64人
◎乳腺エコーとマンモグラフィーを合わせた判定にもらって良かった… 45人
◎医師の診察や結果説明は不要で、検査だけにしたかった… 0人
◎料金が高かった… 5人
◎一般検診と同日に乳腺エコーを受けたかった… 3人

【お問合せ先】かみいち総合病院 健診センター 直通TEL076-472-5136

※お問合せ・ご予約等は午後2時から午後4時までをお願いします。